

二〇一六年一〇月二八日

百選の棚田を抱き山粧ふ
風が大好きとコスモス揺れやまず
黄落の天洩るがごとき山路かな
湖岸道楓紅葉の並木なす
城壘を搦めにからめ蔦紅葉
秋晴にうぐひす張りの音高し

二〇一六年一〇月二七日

秋天下白壁つづく武家屋敷
根ぶか汁手づくり味噌が要てふ
月出でていよよ高鳴る瀬音かな

二〇一六年一〇月二六日

目交ひに主峰の見ゆる花野かな
しまなみの見えず霧笛の響くのみ
竹林の奥に庵す秋灯
秋灯ほほふつくらと朱唇仏

二〇一六年一〇月二五日

屋根よりも高きを伐りて天高し
幾たびも針孔さぐる夜長かな

ぼんこ

ひかり

まゆ

隆松

やよい

満天

菜々

はく子

まゆ

ひかり

智恵子

まゆ

なつき

よし女

やよい

二〇一六年一〇月二四日

縁に腰して適塾の秋を聞く
はかどらぬ遺品の整理秋灯
一面の刈田に白き煙り這ふ

二〇一六年一〇月二三日

山荘へ誘ふ石路の小径かな
花八つ手目隠しなせる外厠
霧雨に蜘蛛の困珠をちりばめし

二〇一六年一〇月二二日

静の面に尾を打ちつけて赤蜻蛉
小鳥来るビル屋上の庭園に
病葉をくるくる回す蜘蛛の糸

やよい

はく子

明日香

せいじ

宏虎

克子

まゆ

さつき

よし女

毎日句会みのる選・二〇一六年一〇月三〇日